



(商学部・両学科共通 履修モデルの説明)

【1年次】

▼入学前に選択した、英会話、中国語、韓国語のいずれか1科目を1週9時間(*)の講義を受講します。

(*)留学選抜試験実施後の6月からは、更なる学習機会を確保する観点から1週15時間の講義となります。

▼外国語の学習とともに、異文化交流科目の社会と文化でグローバル化する国際社会の多様な文化を理解するための講義を受講します。

▼1クラス20名以内のゼミナルを受講することが可能です。講義とは異なり、あるテーマに沿って自ら課題を発見し、問題解決のために議論を深める科目でありながら、高校とは異なる大学生としての勉強のしかたを身に着ける科目です。

▼中国語、韓国語を選択した学生うち、第2セメスターを本学協定校で留学を希望することが可能です。その場合は、選択試験に合格する高い語学力が必要となります。留学しない場合でも、第2セメスターには、更に高度な講義を受講します。

留学した場合には、約5ヶ月におよぶ現地での留学プログラムを学習します。

現地での学習成果として留学で修得した科目(17単位)を卒業単位として認定します。

【2年次】

▼2年次には、必修科目として、経済と社会の基本的な仕組みを理解するための「経済の社会と仕組み」、経済学の基礎理論をマスターする「経済システム理論」、情報処理の理論と実務をマスターする「コンピュータリテラシー」の3科目を専門基礎科目として配置し、商学部で専門科目を学ぶための基礎として、またビジネスパーソンにとって必須の知識と技能の習得のため配置しています。

▼第4セメスターに所属学科を決定し、本格的な専門科目の講義と、専門ゼミナルを受講します。両学科ともこれから展開される開講科目を履修する際に求められる基礎知識を獲得する科目が開講されます。

▼ゼミナルでは、コミュニケーション、プレゼンテーション、課題発見、問題解決、組織運営の向上を目指します。

▼2年次から資格取得を目指し、自らのキャリアアップのための専門キャリアアップ科目(APQ科目)が開講されます。

▼専門基礎科目と並行して両学科共通に選択できる専門関連科目が2年次から開講されています。

専門科目を学ぶための基礎づくりと専門関連領域の知識を広げることに繋がります。

【3年次以降】

▼これまでの経験を活かして、第5セメスターに発展科目、その後第6セメスターでは応用科目を開講し、スムーズに学習できるよう専門科目を配置しています。

▼5セメスターからは、専門科目の勉強と並行して卒業後のビジネスに直接結びつくための専門キャリアアップ科目(APQ科目)が開講しています。

MOS資格の資格取得を目指す「情報管理論」、旅行業への就職と資格の取得を目指す「旅行業務論」、税理士・公認会計士を目標にする「税務会計論」、貿易実務検定取得及び通関士の資格取得を目指す「通商実務論」、それぞれの語学検定試験(TOEIC、HSK、TOPIK)の上級レベル合格を目指すPAL科目を開講しています。